

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

平和橋通り－1



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」、「葛西橋通り」、「中野通り」と歩いてきました。

今回は「平和橋通り」を歩きます。平和橋通りは足立区足立一丁目の千住新橋東北詰交差点を起点に、江戸川区松島二丁目の八蔵橋交差点に至る延長約 7 kmの道です。写真右上は平和橋通りの道路名標識（都道 308 号線）です。

掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[千住新橋]

1911年（明治44年）～1924年（大正13年）荒川放水路（現在の荒川）の開削で分断された国道4号線（現在の日光街道）が通る橋です。橋名は千住地区に以前からある千住大橋にちなんだとのこと。



[千住新橋北詰交差点] 足立区足立一丁目

最寄駅 東武スカイツリーライン 五反野駅

荒川の土手脇の千住大橋北詰交差点（写真下左）が平和橋通りの起点（写真下右）です。起点の道路標識は右端が直角で「ここから」を示しています。上は日光街道、その上は高速道路中央環状線が通っています。



少し行くと、写真下左のつくばエクスプレス、写真下右の東武スカイツリーライン（伊勢崎線）の下をくぐります。いずれも右へ行くと北千住駅です。



[東京拘置所] 葛飾区小菅一丁目

最寄駅 東武スカイツリーライン 小菅駅

葛飾区に入ると左側に東京拘置所があり、初めて東京拘置所脇を歩きました。



塀の中の高い建物は遠くから撮りました（写真左）。

この地は江戸時代、将軍家の鷹狩りの休憩所「小菅御殿」、明治に入り、小菅県の県庁、日本初の煉瓦工場、刑務所と変わり、戦後は池袋の東京拘置所が移転して来ています。

[水戸橋・新水戸橋] 葛飾区小菅一丁目

最寄駅 最寄駅 東武スカイツリーライン 小菅駅

平和橋通りは直進して新水戸橋を渡りますが、脇の水戸橋（写真下左）に進み、綾瀬川（写真下右）を渡り、新水戸橋交差点に合流しました。水戸橋の説明板によると「橋名の由来は水戸黄門（光圀）一行が旅の途中で、小菅村に出没する妖怪を退治しました。その妖怪は親をならず者に殺され、敵を討とうとした狸でした。子狸が退治されそうになった時、近くのお地蔵さまが身代わりとなりました。その事実を知った光圀は、後の世まで平穏となるようにと自ら筆をとり、傍らの橋の親柱に「水戸橋」と書き記したと伝わっています」と記載。



[小菅神社・田中稻荷神社]

葛飾区小菅三丁目

最寄駅 京成本線 堀切菖蒲園駅

小菅神社は1869年(明治2年)現在の東京拘置所の場所に小菅県庁が設置され、小菅県の守護神として伊勢神宮から分霊が勧請された。2年後、小菅県が廃止され、地元の鎮守の田中稲荷神社の境内(写真下左右)に移設されました。



写真左は境内にある田中稲荷神社です。田中稲荷神社は各地にある地元の鎮守ですが、創建の詳細は不明のようです。名の由来は田中氏が勧請したとか、田の中にあつたからとか諸説あります。

写真下右は右側の新水戸橋から来て合流する交差点です。平和橋通りはこの先を左折して水戸街道方面に進みます。



[小菅中の橋北交差点] 葛飾区小菅二丁目

最寄駅 京成本線 堀切菖蒲園駅

平和橋通り（都道 308 号線）は小菅中の橋北交差点（写真下右）を左折して、水戸街道方面に進みます。直進は都道 450 号線で堀切方面です。



[堀切五丁目交差点] 葛飾区堀切五丁目

最寄駅 京成本線 堀切菖蒲園駅

堀切五丁目交差点で川の手通り（314 号線）と交差します。左へ行くと加平方面、右へ行くと堀切橋方面です。平和橋通りは直進します。



[本田広小路交差点] 葛飾区立石二丁目

最寄駅 京成押上線 京成立石駅

本田広小路交差点（写真下右）で水戸街道（国道6号線）と交差します。左へ行くと青戸方面、右へ行くと言問橋方面です。平和橋通りは平和橋、新小岩方面へ直進します。上は水戸街道の四ツ木陸橋です。



今回はここまでとします。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩379 令和3年10月から掲載済です。今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。八柳修之さんから京都を出発して江戸に向かっているとの情報をいただきました。東海道を歩いている他の皆様からも旅の進捗のご連絡をお待ちしています。

2023年8月8日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年9月24日三島宿（現在の静岡県三島市）（江戸日本橋から112km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。

三島は源頼朝が源氏の再興を祈願し、成就した三島大社（写真下左）があり有名です。三島大社は伊豆国一之宮として広く信仰を集めました。また、街中を流れる富士山の湧水 柿田川湧水群（写真下右）やうなぎ・わさび漬けが名物です。



写真左は「三島 朝霧」です。背後の鳥居は三島大社の歩道入口に立っています。朝霧の中を発つ旅人の一群を中央に配しています。背景は輪郭線がなく、徐々に薄くする描写で、遠近感と霧が立ち込める雰囲気を表しています。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝